

学校図書館について

佐久間 儀 郎



〔質問〕本市教育における意義、位置づけについて、市長および教育長の見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕学校図書館は、本に親しみ学ぶ力と心を育てる空間であり、言語能力、情報活用能力の育成など、学力向上を支える一部分であると考える。

〔教育長〕学校教育に欠くことができない基本的な設備であり、学校はその役割や価値に関する理解を深め、さまざまな学習場面での活用や魅力ある整備、充実に努めていきたいと考える。

〔質問〕図書や新聞等の蔵書整備状況、図書選

定方法、図書整備の標準達成率について伺う。

〔答弁〕〔学校管理課長〕蔵書については、多様な本や新聞を含めた資料を準備している。選定については、蔵書構成の比率、学習活動との結びつき、児童・生徒および教師の希望、読書能力に合う図書の選定などに配慮し行なっている。

図書標準達成率は、13校中8校が達成、小学校4校と中学校1校において未達成であり、特に小学校への対応が急務である。

〔質問〕学校における新聞の配置状況を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕中学校は多く全国紙、地方紙等を、寄付も活用しながら購読していると認識している。

〔質問〕文科科学省の学校図書館図書整備等

5力年計画では、小学校にも複数の新聞の配備を盛り込んでいる。制度を活用し、これらを含めた学校図書館の充実を望むところである。

司書教諭、学校司書等の人材の配置状況について伺う。

〔答弁〕〔学校管理課長〕司書教諭は、11学級以上の小・中学校で計4校、その他の学校で9校中5校に置かれており、中心的な役割として運営、活用にも努めている。なお、学校司書は配置していない。

〔質問〕学校図書館については総合教育会議で市長と教育委員会が協議・調整することが有効と考えるがいかがか。

〔答弁〕〔市長〕総合教育会議は教育委員との意見交換、懇談の場であることから、今後取り上げていきたい。

〔その他の質問〕

◎「ツヤハダゴマダラカミキリ」の防除について

高齢者福祉事業について 他

佐藤 秀 行



〔質問〕高齢者タクシー利用助成事業および重度心身障害者移動サービス事業について、利用者の現状から、タクシー利用券の交付枚数を月2枚から平成30年度以前の3枚に戻すこと、また、1回当たりの助成額を500円から1千円を上限にすることなど、見直しを検討すべきと考える。見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕高齢者の足の確保、移動支援の観点からみると、さまざまな角度から検討する必要があると考える。今後、庁内で検討していきたい。

◎分校の利活用について

〔質問〕現在、休校となっている長峯、不忘三住、八宮の4分校の利活用について、どのように考えているか。また、地元自治会からどのような声があるのか伺う。

〔答弁〕〔教育長〕分校は、地域の交流拠点としての役割を担っており、地域コミュニティの創出に大きな役割を果たしている。

地元からの声については、廃校にするのであれば地域で活用したいとの話も伺っている。今後、地域の方々との十分な話し合いのもと、具体的な活用について検討していきたい。

〔質問〕地元自治会が分校の維持・管理を行うため、毎年、草刈り等の作業を年複数回行なっている。

地域住民の高齢化も進んでおり、作業の負担は大きいものがある。諸物価高騰の折、金銭面等でのさらなる支援・援助も行うべきと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕分校の草刈りなどの維持・管理を地域の方々が行なっていることに対し、深く感謝する。

昨今の情勢の影響から、燃料などの諸経費が高騰している現状を踏まえ、今後、支援・援助について検討していきたい。

〔質問〕支援・援助等について、市長の見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕地元自治会の方々のご理解とご協力に対し、深く感謝する。

市としても、しっかりとこの分校を維持していくことができるよう、必要な財政支援などを含め、前向きに検討していきたい。